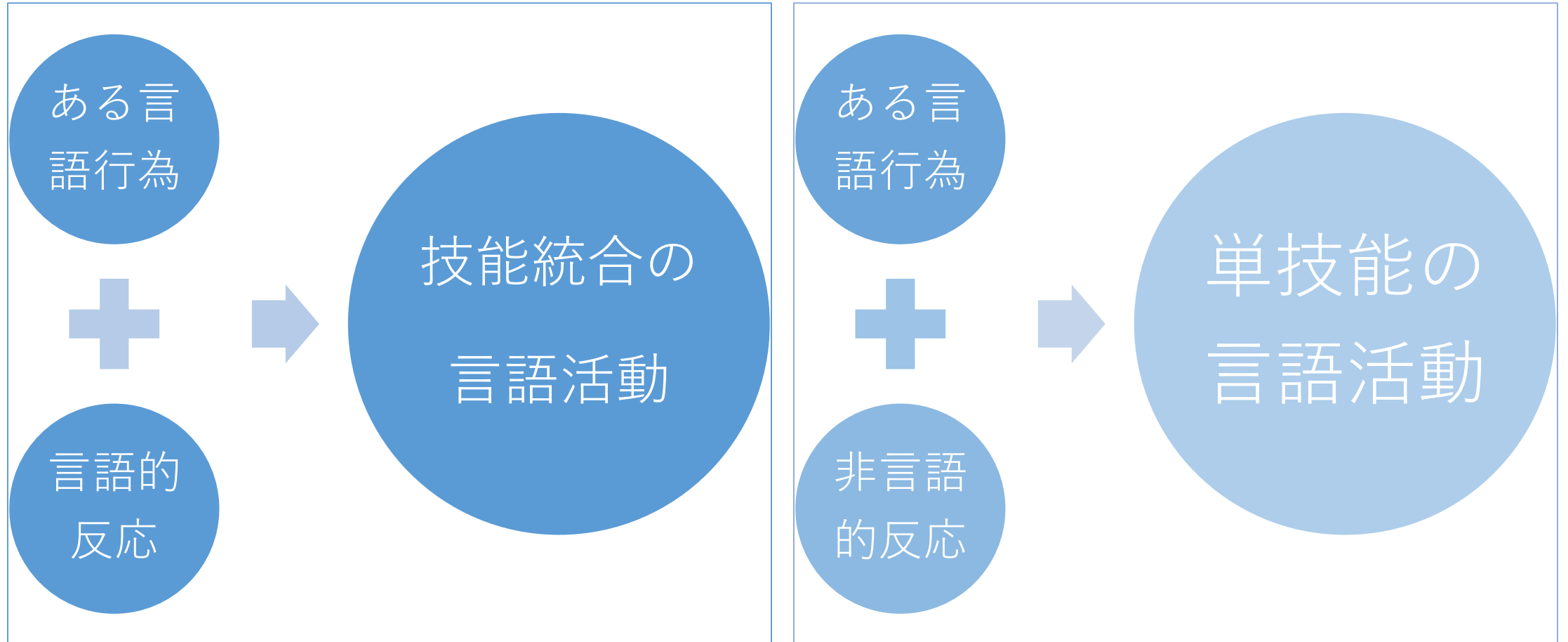


技能統合から発想する 言語活動

東京外国語大学大学院

根岸雅史

言語活動の分類



平成29年英語教育実施状況調査概要

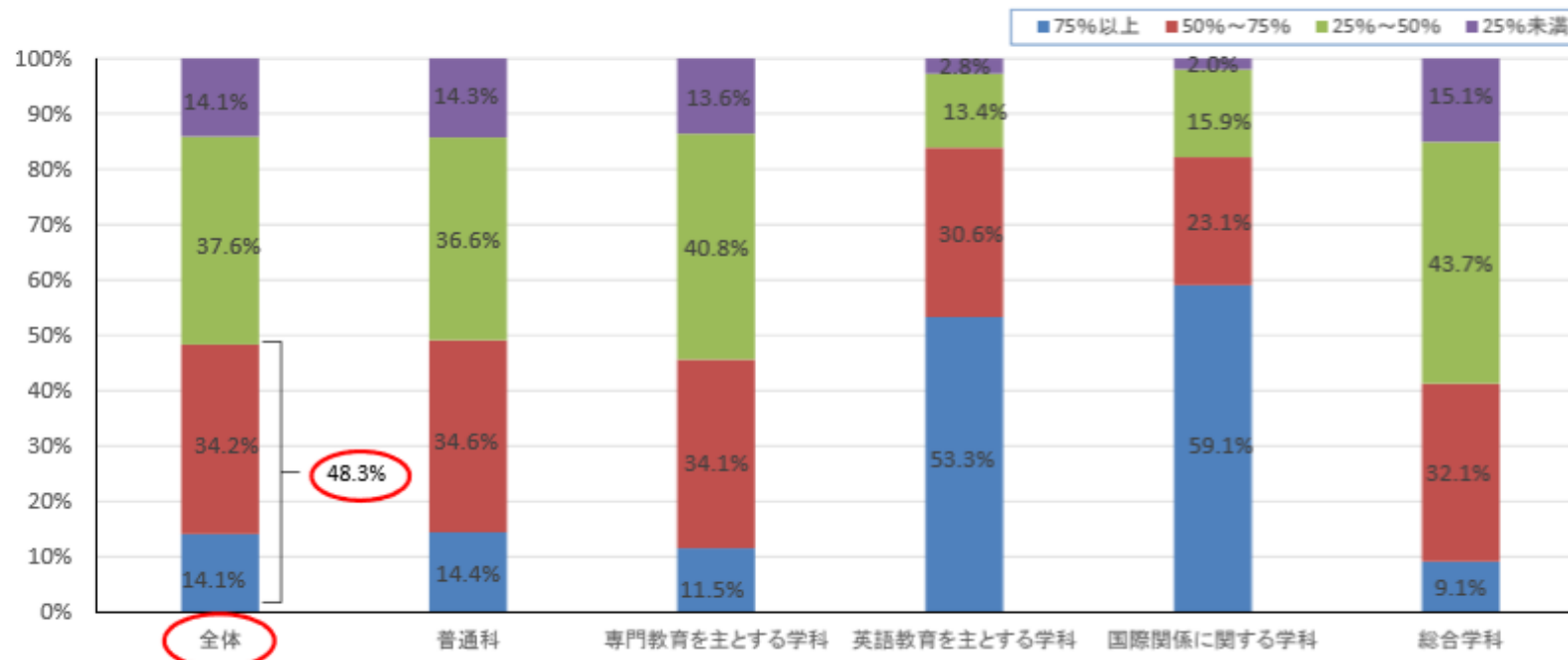
生徒の英語力に関すること③

生徒の英語を用いた言語活動の時間

○授業における生徒の英語による言語活動時間の割合は、全ての学科・科目の合計では「おおむね行っている(75%以上)」が14.1%、「半分以上の時間、行っている(50%～75%)」が34.2%で、両者を合わせると48.3%となっており、平成28年度より1.1ポイント上昇している。

※調査した科目：普通科、専門教育を主とする学科、総合学科：コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ
英語教育を主とする学科、国際関係に関する学科：コミュニケーション英語Ⅰ、総合英語、異文化理解

授業における生徒の英語による言語活動時間の割合(学科別)



技能統合の指導はなぜ必要か

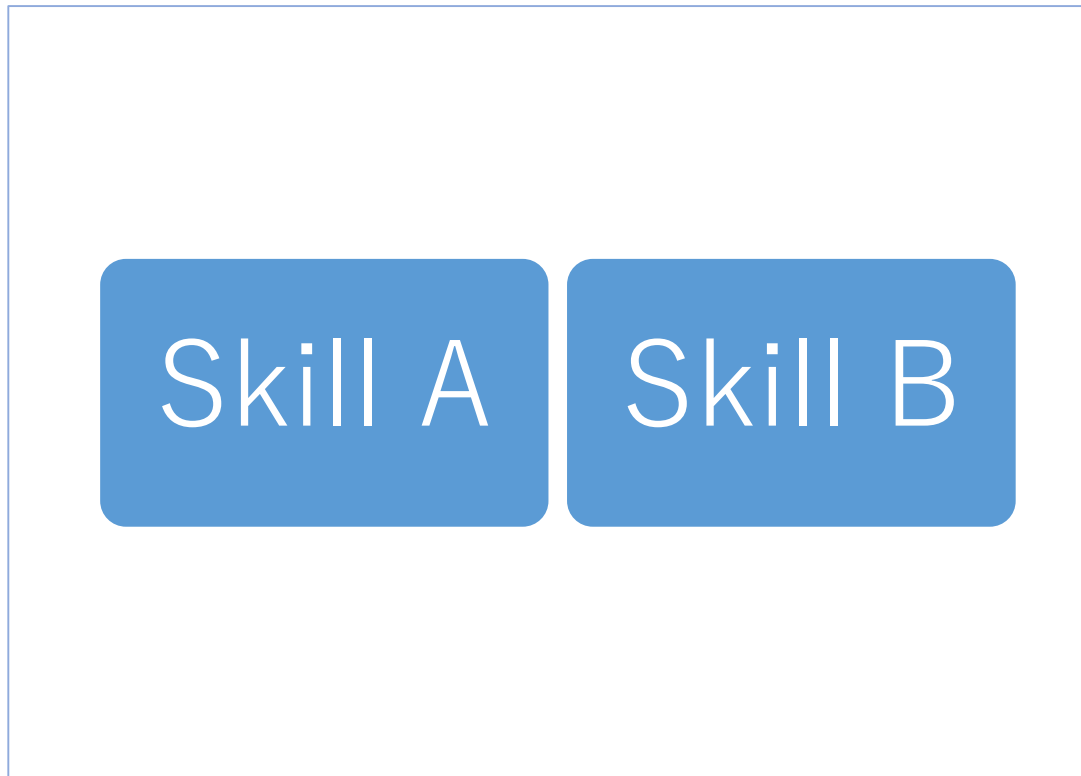
- よりオーセンティック
- 心理言語学的妥当性
- 言語教育学的妥当性

統合の組み合わせ (2技能統合)

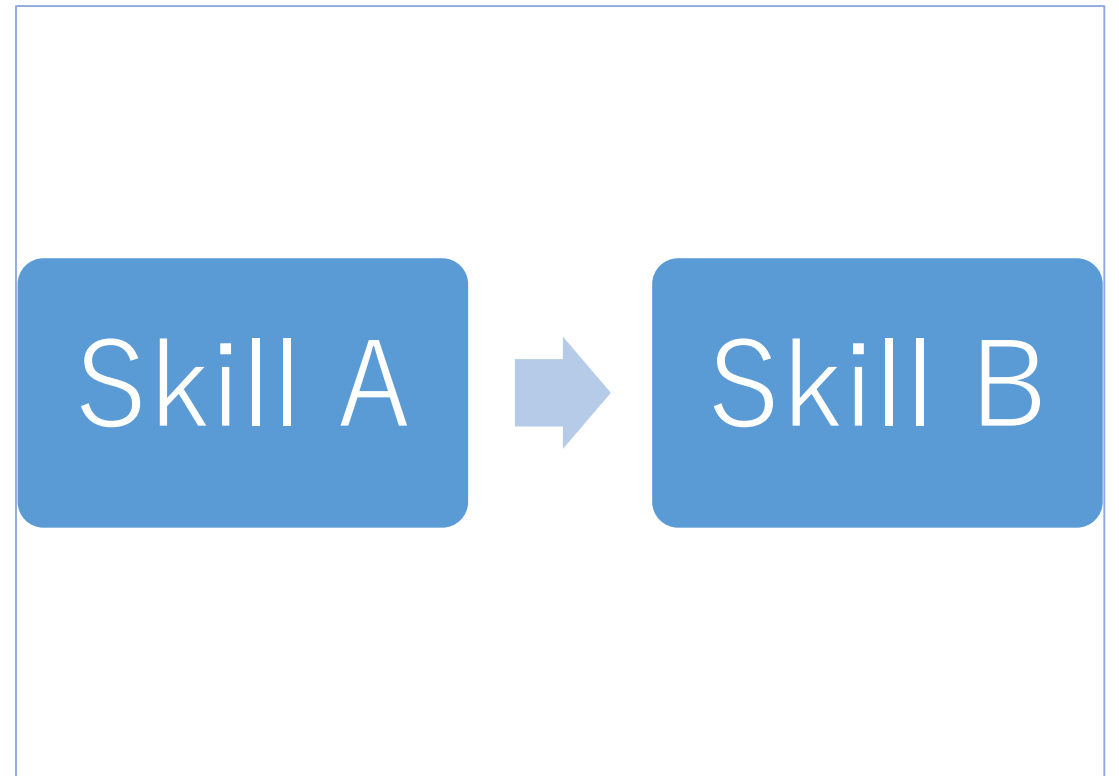
- 受容技能→発表技能
 - RW, RS, LW, LS
 - RW:メールを読んで返事を書く
 - LS:ラジオのニュースを聞いて、その内容を友達に伝える
- 発表技能→受容技能
 - SR, SL, WR, WL
 - SR:ある映画について話してから、その映画の上映映画館をネットで探す
 - WR:レポートを書いてから、論文を読んで書いた内容を確認する
- 受容技能→受容技能
 - RL, LR
 - RL:あらかじめ指定された論文を読んでから、その内容に関する講義を聴く
- 発表技能→発表技能
 - SW, WS
 - WS:スピーチのメモを書いて、それを元にスピーチを行う

技能統合の観点：技能統合の同時性

同時



非同時



技能統合の観点:技能の比重

- 同等の比重 : Skill 1=Skill 2
- 最初が重い : Skill 1>Skill 2
- 最後が重い : Skill 1<Skill 2